

## チョウジソウ

学名： *Amsonia elliptica* Roem. et Schult. 科名：チョウチクトウ科



チョウジソウは5〜6月に花期をむかえます。茎の頂には青紫色の花を多数つけます。花冠は筒状で、その上部は5つに分かれるようにして平らに開きます。花を側方から見たときに漢字の「丁」に見えることからこの名前が付けられたと言われています。

美しい青紫色の花をつけるチョウジソウですが、種子、茎葉、根などの全ての部分に毒を持つ有毒植物です。種子に含まれているアルカロイドの一種である「アムソニン」は局所麻痺、瞳孔散大、血圧低下、血管収縮などの作用を有しています。トリカブトが強心薬として用いられているように、有毒植物の中には毒草でもうまく利用して医薬品として使用されているものもありますが、チョウジソウは薬用としては用いられていません。

チョウジソウは日本にも分布しており、川岸や原野などの湿った場所に生育している多年草です。しかし、護岸工事や宅地造成などの湿地の開発により、自生地が減少しています。そのため現在、日本では絶滅危惧植物に指定されています。

生薬名	—
薬用部位	—
薬効	—
用途など	絶滅危惧植物に指定されている。



# ベニバナ

学名： *Carthamus tinctorius* L. 科名：キク科



ベニバナはエジプト原産であり、古い時代に日本へ渡来してきました。かつては千葉県でも栽培されていたようですが、今では山形県で盛んに栽培され県花として有名です。古くから布を染めるための染料として用いられてきました。花弁には黄色と紅色の色素が含まれています。花弁を水でもむと黄色の色素は水に溶けて流れ出ますが、紅色の色素は水に溶けずにそのまま花弁に残っています。これを応用したものが紅花染めです。他にも、食品や化粧品の着色料、食用油として用いられています。

ベニバナは6〜7月に枝端に20〜100の筒状花を咲かせます。鮮黄色の頭花がつき、のちに赤色へと変化します。葉や花の付け根には鋭いとげがあります。血流を良くし、血の流れの滞りを除き止痛する作用があり、女性で悩む人が多い冷え性、更年期障害といった血行障害に煎じて服用されます。捻挫、打撲による皮下出血に紅花油として外用します。しかし、子宮収縮作用を有しているため妊娠中の方には注意が必要です。また、紅花油はリノール酸を含んでいるため、コレステロール値を低下させ動脈硬化予防につながります。

生薬名	紅花（コウカ）	局方生薬
薬用部位	花	
薬効	鎮痛、消炎、子宮収縮刺激作用など	
用途	婦人薬とみなされる漢方の処方に配合される。 通導散（ツウドウサン）、治頭瘡一方（チヅソウイッポウ）	



## ウコギ

学名：*Acanthopanax sieboldianus* Makino 科名：ウコギ科



淡い緑色の小さく可愛らしい花をつけるこの植物はウコギといえます。樹高2m前後の落葉低木で、日本全国の高原や山に分布し、春には新芽をゴマ和えやおひたし、てんぷらで楽しめます。花の見ごろは5〜6月ですが、山菜としては3月から収穫でき、木が低いため摘み取りも容易です。葉は手のひらを広げたように開いているのが特徴ですが、山菜として食べるなら葉が開く前の柔らかい時期が良く、ウコギ科独特の苦みや渋み、香りを楽しめます。しかし、ウコギにはトゲがあるため摘み取る際には注意が必要です。

原産国の中国では、根は薬用酒である五加皮酒（ゴカヒシユ）に用いられ、「不老長寿の薬」として飲用されます。民間療法では鎮痛、強壮作用を目的として、腹痛、リウマチ、更年期障害などに適応されます。同じウコギ科の有名な薬用植物に「ニンジン」があり、強壮、鎮痛作用を目的として様々な漢方薬に配合されています。

これから山へ出かけるときは、手のひらのような形の葉のそばに、小さな花や若い葉がないか探してみるのも楽しいかもしれません。

生薬名 五加皮（ゴカヒ）、五加葉（ゴカヨウ）

薬用部位 根皮、葉

薬効 滋養強壮、鎮痛作用

用途 腹痛、疲労回復、冷え症、関節リウマチに用いられる。



# ハマエンドウ

学名：*Lathyrus matritimus* Bigel. 科名：マメ科



「エンドウ」と聞いてエンドウ豆やサヤエンドウを想像した方もいるのではないのでしょうか？ハマエンドウはエンドウ豆と似た果実を付けますが、硬くて食べられません。

ハマエンドウはアメリカ、アジア、ヨーロッパなどの広い範囲で見られます。日本では、北海道から沖縄まで全土の海岸に生えています。つるのように茎を伸ばし、マメ科に特徴的な蝶のような形をした紫色の花を付けます。サヤエンドウとして知られるエンドウに見た目が似ていて、砂浜に多く生えることからハマエンドウという名前になったそうです。

ハマエンドウは韓国や中国、日本で様々な使い方で行われてきました。韓国では、乾燥させた種子を健胃、消化不良、筋肉の痙攣などに用います。また、葉はかゆみを伴う疥癬という皮膚疾患や切り傷にも効果があるそうです。日本では昔、野菜の代わりとして食べていた時期もあるそうですが、酸が多く含まれているため、食べる際は煮沸が必要です。

生薬名	—
薬用部位	種子、果実、葉
薬効	皮膚疾患、健胃作用
用途	かゆみのある疥癬や切り傷に用いる。